

冠動脈疾患のある人の腸内細菌叢は冠動脈疾患発症前から変化

冠動脈疾患のある患者の腸内細菌叢は健康な人とは異なっているが、その違いは冠動脈疾患の発症前から認められるのかについては不明である。本研究では、日本人を対象に、冠動脈疾患発症前の冠動脈石灰化に関する腸内細菌叢について横断研究を実施し検討した。

対象となった日本人男性 46 歳から 83 歳の 663 人（平均年齢 68.4 歳）に CT および腸内細菌の検査を行った。冠動脈石灰化スコアにより 4 群 [0 (219 人)、 $0 < \text{かつ} \leq 100$ (200 人)、 $100 <$ (193 人)、冠動脈疾患の既往あり (51 人)] に分け、解析した。結果、腸内細菌叢のうち Firmicutes 門、Bacilli 綱、Lactobacillales 目は冠動脈疾患リスクが 1.3-1.4 倍高く、冠動脈石灰化スコアも高かった。

したがって、冠動脈疾患の発症前であっても、腸内細菌叢は健康な人とは有意な違いが認められることが示唆された。

出典：American Heart Journal. 2023 Oct 5: S0002-8703(23)00282-X.